

「大和北道路」

大和北道路有識者委員会では、
これまでさまざまなPI活動を実施してきました。
今回は「公聴会」「インタビュー」での
ご意見をご報告します。

公聴会

公述人として応募いただいた14名の方々のご意見を報告します。

「住民にとって効率的で安全な道路網整備」

高嶋 雅裕氏

国道24号を中心とした慢性的な交通渋滞で、最も憂慮する影響は緊急輸送の問題である。交通渋滞による医療処置の遅れは、人命に関わる問題であり、自分も実際に経験しただけに、背筋が凍る思いである。この問題を解決するためにも、交通渋滞が改善され、市民が円滑に移動できる幹線道路ネットワークの整備が必要だ。これにより生活道路への流入が減り、住民にとって安全で安心した交通・医療が享受されるはずである。



「京奈和自動車道大和北道路の計画を早期に決定して下さい」

松本 敏裕氏

年々増加する交通量で、慢性的な渋滞や事故の増加、排気・騒音の被害は甚大で、特に渋滞箇所付近の住民への被害は悲惨である。時間が大切な現代社会において、道路事情の悪さを使った言い訳は、もはや遅延理由にはならない。京奈和自動車道はこれらの問題を解消するものと期待している。もちろん文化財の保全や景観への配慮は当然必要であるが、それ以上に我々にとって京奈和自動車道の必要性は高い。計画を早期に決定し、必ず完成してほしいと願うばかりである。

「公害のない道づくりを」

西村 忠雄氏

道路建設には住民の生活を配慮することが基本で、なおかつ自然と都市との調和が特徴の奈良では自然を破壊する行為は許されない。21世紀は物より心の時代で、生活のスタイルを変えてはどうか。交通体系については、公共交通機関を含めた総合的なものであるべきで、高速道路を計画する場合は一般道路との整合性を持たせた計画にすべきだ。大和北道路は日常的には公害道路の性格をおびるもので、高速道路を実施しない場合の対策をもっと緻密に検討して欲しい。車の増加・渋滞・公害拡大・解消と称しての道路建設。車の増加渋滞・公害深刻化というイタチゴッコになる恐れがある。車規制という対応も必要ではないか。

「世界遺産エリアでの高速道通過ではなく 世界遺産都市奈良にふさわしい交通・道路計画を求める」

浜田 博生氏

大和北道路の計画は、はじめに高速道路通過ありきという点がみえ、文化国家である日本としては残念なことである。さらに、確証性に乏しい社会的効果を謳う文句が強調されていることも問題だ。今奈良に求められているのは高速道路ではなく、数世紀に及ぶ日本の首都奈良の歴史を、絶対に残していくという意気込みを持って、何らかの提言を投じることである。日本の都市の多くがそれを怠り、歴史的景観を壊し個性のないものへと変貌していった。世界の良識に応えるためにも、よりよい交通計画・道路計画を推進してもらいたい。

「二四号バイパスの東側に設置」

川本 正信氏

最良のルートは、国道24号バイパスの東側に通すことだ。距離が最短で時間的ロスが小さいうえ、農地等が多く買収のコストが比較的小さいからである。平城宮跡の問題は、遺跡に害を与えない程度の深さでトンネルを整備すればよい。つまり、工費を少しでも小さく、通行時間のロスも小さく、結果的に国民の貴重な税金を無駄なく活用する効率のよい工事を進めて、一日も早い着工・整備を実施し、地域の発展に尽くしてもらいたい。

ご意見、ご質問をお待ちしています。

大和北道路有識者委員会

〒630-8115 奈良市大宮町3-5-11 <http://www.kkr.mlit.go.jp/nara/>

事務局／国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所 調査第二課内 TEL.0742-33-1391

PI活動で実施した「公聴会」「インタビュー」で寄せられたご意見

公聴会

「平城宮址の地下を通過するルートについての一検討案」

島田 仁氏

大和北道路は、最も低コストで経済的なルートであることが前提であり、将来の利用者に禍根を残してはならない。つまり、高速で快適に通過交通を処理できるルートが必要条件となる。また、ルート上の地下埋設物遺産を調査し、資料保存を図らなければならない。さらに周辺住民の生活と景観環境や地下埋設物への悪影響を回避できるという確証だった説明も必要である。地下水位と埋設遺産への影響は、トンネルで大深度シールド工法を用い、工期も3～10月と降雨期に限定する。さらに地下水位の観測設備と流入井を設置して、今後のために地下水位還元措置も講じる。

「大和北道路は市街地(奈良市)を通すべきではない。」

小井 修一氏

どんなに万全な対策をもってトンネルを施工しても、地下水の動きは予想できず、シミュレーションも確証だったものではない。したがって、木簡等の地下遺構を守るためにも、平城宮跡エリアに高速道路を通してはならない。また、今まで生活道路の整備を軽視した結果、発生し続けている奈良市内の渋滞に対する改善策としては、通勤時のマイカー規制や観光でのバスアンドライド等のTDMである。高速道路による大気汚染のため、平城宮(京)エリアや、奈良の市街地を通すべきではない。高速道路で奈良市内の渋滞解消はできない。

「最小の費用、最大の効果を大和北道路に期待します」

横田 充洋氏

税金を納める市民としては、トンネルにかかる莫大な費用で別の手段を講じれば、もっと多くの移動手段が確保可能ではないか。例えば大和中央道の整備、国道24号の車線増加改良、山岳トンネルによる国道169号バイパスなど、南北道路を順次整備することで、平城宮跡周辺は、アクアラインや東京の井荻トンネルのように法隆寺なみの高さの換気塔を数本建てる必要もなく、景色も含めほとんど手をつけずに渋滞が解消され、文化財の確実な保護が可能と思われる。

「大和北道路完成までの渋滞緩和策」

堀内 重人氏

奈良県の東西幹線道路はまだよいのだが、南北の道路事情が脆弱だ。奈良市と第2の人口を持つ橿原市とを結ぶ高速道路が必要だと考えている。したがってルートとしては、木簡や文化財を保護する必要性から、佐保川の下を通し、奈良市から橿原市の高田バイパスまでの区間とすることで十分だと思う。ただし、着工から完成までに長い年月がかかる可能性があり、その間交通渋滞を悪化させることなく、渋滞を緩和したい。つまり道路建設と並行しながら、鉄道を有効利用するような対策、例えば公共交通おししの乗継ぎ改善や駅の増設、県内でゾーン運賃を適用させるなど、両面の対策が必要である。

「現行4ルート案を白紙に戻し、第5ルート案を提案」

水口 信義氏

検討ルート4案については、いずれも懸案事項を早期に解決できるものとはいえない。そこで新たなルート案として、京奈和道路の木津、精華町のICから最終的に郡山または法隆寺のICまで一気に高架で継ぐ案を提案する。木津、精華町付近から生駒市、富雄川上を高架にすることで、用地の取得、建設費用が4ルート案より安価で済み、早期完成が可能。途中の国道163号線、阪奈道路、第2阪奈道路および国道24号線の交通事情の改善など利便性が増し、世界文化遺産の保護、地域住民の生活環境、自然環境の保護などを含めて「第5ルート」案が一步前進すると考えている。

「かけがえのない古都奈良の歴史遺産を壊さないで！」

鬼頭 順子氏

歴史的、学術的に貴重な木簡や遺跡が眠っているのに、なぜ、わざわざ古都の真ん中に高速道路を通さなければならないのか。高架は古都の景観を台無しにし、また地下にすれば遺跡の破壊はもとより、トンネル工事による地下水への影響は必至である。地下水脈は複雑で、多少のボーリング調査で全容が解明されるものではない。平城宮・京跡で地下水位に変化を起こしてしまったら、木簡は消滅し、世界的に貴重な歴史的資料を永久に失うことになる。大和北道路を容認するわけにはいかない。4ルート案は再考してもらいたい。

「計画当初からの合理的なルートを」

磯 三男氏

トンネル工事の各問題点については、技術的に十分対応できると考えている。むしろ、木簡など埋蔵文化財に対し問題があるのは、渋滞による温室効果ガスの増加、地球温暖化の方が深刻である。広大な平城宮跡が周囲の交通事情を悪化させているため、中央にトンネルを通し、交通渋滞の解決を図るべきだ。かつての奈良の都の宮にふさわしい、車が通らない遺跡にすることが肝要だ。地下で通せば、大極殿へのライフラインの供給にも利用できる。したがって、遺跡、環境、道路事情、観光等、総合的に考え、京奈和自動車道は地下をトンネル(かえてトンネルの方が、地下表層部の木簡など地下埋設遺跡を保護できる)で通すルートが一番合理的だと考える。

「京奈和自動車無くして、奈良県の発展無し」

奥田 裕久氏

身体障害者にとって、幹線道路の渋滞や生活道路への車の大量進入は大変危険であり、早く渋滞を緩和し、走りやすく生活しやすい道路を願うばかりである。特に大和北道路の完成が早期実現すれば、企業誘致で奈良の産業活性化につながるはずである。将来大和北道路が、関西圏の大環状道路の一部として、人、文化、経済、観光の交流を広げる。高架化による景観の問題も、自然と溶け込んでいき、違和感がなくなると思う。古いものと新しいものの融合も必要である。

「歴史の証人「木簡」を守ってください！」

館野 和己氏

世界の中でも、これほど集中して木簡が出土しているところは、他にないとされるほど、平城京跡一帯は世界最大級の木簡出土遺跡である。地下トンネルは、地下水の中で腐らずに保存されてきた木簡にとっては大きな問題だ。数回の地質調査で、地下水位に影響がないと断言できるはずがない。道路の建設は車の交通量を増やし、トンネルにしる高架にしる、文化財への被害を拡大させるであろう。本当に高速道路が必要なかどうか、他に方法はないのか、根本的なところに立ち戻って議論を進め、木簡を初めとした文化財との共存を図るべきだ。



インタビュー

現在の交通状況・道路整備状況等について、ご意見をお伺いしました。

■奈良市の自治会、PTA等の方々からのご意見

- 渋滞や道幅が狭いことで、もし災害が起きたとしても、救急車も消防車も入れない。
- 歩道が未整備な道路が多く、道幅も狭く、子供が車道を歩き危険である。
- 生活道路へ車が流入してこないように、配慮して欲しい。
- 文化財を気にしては、我々自身の生活が確保できない。文化財より渋滞緩和が重要である。
- 大和北道路を通す際は、環境にも十分配慮して欲しい。
- 保存か開発、どちらを選んでも、ある程度の犠牲は伴う。古いものも大切であるが、今、住んでいる我々の便宜も図って欲しい。
- 一日も早く大和北道路を整備して欲しい。

■大和郡山市の自治会、PTA等の方々からのご意見

- 国道24号、25号が渋滞しているため、狭い道路へ迂回してくる。
- 通行禁止規制を導入しているにも関わらず、車が入ってくる。
- 幹線道路につながっている道路、もしくは迂回ルートが通学路になっている場合が多く、危険を感じる。
- 渋滞を緩和するため(道路を作るため)に文化財を少々犠牲にすることになって仕方が無い。
- 高速道路の整備だけではなく、一般道やインターチェンジへのアクセス道路も併せて整備しなくては渋滞緩和にならない。
- 全部が満足できるようなものは絶対できない。トータル的な発想で検討して欲しい。
- 我々だけではなく幅広く一般の方々のご意見を伺って、時間をかけて、よく考えて欲しい。